

# 「科学の芽」賞20周年

## 子どもたち支援でクラファンも

小学3年生から高校3年生までの児童・生徒を対象に筑波大が実施している科学コンクール「科学の芽」賞が今年、20回の区切りを迎えた。ノーベル物理学賞受賞者で、筑波大の前身の東京教育大学長を務めた朝

永振一郎博士の生誕100年を記念し、2006年に始まった。コンクール名は朝永博士の「ふしぎだと思ふこと、これが科学の芽です」との言葉に由来する。

生協の協力も得ながら審査をし、優秀作品には最高賞の「科学の芽」賞や奨励賞、努力賞などが授与される。また、応募者全員に参加賞が贈られる。

筑波大付属学校教員、筑波大教員が、筑波大大学院

賞は始まった。対象となった分野に限らず、応募をきっかけに研究の道に進んだ受賞者もいる。子どもたちの人生に影響を与えていると感じる」と語る。

第20回の節目に、子どもへの研究を支援する取り組みを進めるため、9月1日から11月30日までクラウドファンディングを実施している。目標金額は100万円。12月に開催予定の「20周年記念表彰式・発表会」に過去の受賞者を招いて交流を深め、賞に応募する子どもたちを支援するコミュニティを構築する予定で、メールやウェブで過去の受賞者への参加を呼び掛けている。

第1回の応募総数は645件（小学校281件、中学校328件、高校36件）。応募数が3000件を超えたこともあったが、コロナ禍で減少した。現在は回復傾向にあり、昨年の応募総数は2377件（小学校838件、中学校1277件、高校262件）だった。

同賞を運営する附属学校教育局で次長を務める梶山正明教授は「国立大附属学校として日本の理科教育に貢献できた」という思いで

筑波大学新聞 2面にて掲載  
令和7年 10月 1日 発行  
本記事は、筑波大学新聞から掲載許可を得ています。  
記事の著作権は、筑波大学新聞に帰属します。

記事の無断での転載はご遠慮ください。



理科教育の振興に貢献したいと意気込む梶山教授  
(9月10日、筑波大東京キャンパスで)

クラウドファンディングのURLは (<https://readyfor.jp/projects/kagakunome20>)  
(青野心平、写真も)